

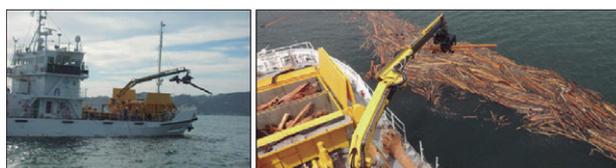
⑤平成28年台風16号における調査観測兼清掃船「海煌」の流木回収活動

受賞機関 国土交通省九州地方整備局
熊本港湾・空港整備事務所
鹿児島港湾・空港整備事務所

キーワード 災害被害地支援、安全・安心の確保

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成28年台風16号により鹿児島湾に流出していた流木が、高速船やフェリーの安全な航行に支障を及ぼしていたことから、熊本港湾・空港整備事務所に配備されている直轄調査観測兼清掃船「海煌」が管轄外である鹿児島湾の流木回収を行った取組み。地元の漁業者との連携を図るなどして、大量の流木の迅速な回収を行い、鹿児島湾の早期の安全航行環境が確保できた点が高く評価された。



大量に漂流する流木の回収

1. はじめに

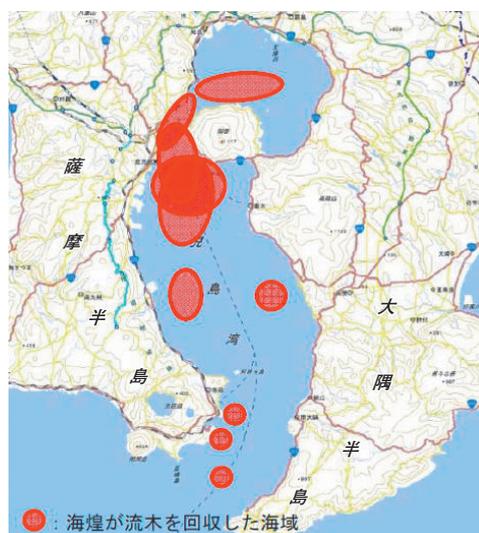
調査観測兼清掃船「海煌^{かいこう}」は、熊本港湾・空港整備事務所に所属し八代港を基地に有明海・八代海の海上漂流ゴミの回収と水質・底質等の環境調査に従事している。

平成28年9月20日台風16号は、非常に強い勢力で鹿児島県大隅半島に上陸、この影響により各地で土砂災害が発生し鹿児島湾内に大量の倒木が流出して湾内を漂流する事態となった。

鹿児島県は、奄美大島や種子・屋久島等、多数の島々を持つ有数の離島県であり、離島と県庁所在地の鹿児島を結ぶフェリーや高速船等の定期航路は離島の生命線であった。また湾内の桜島や垂水と鹿児島港間にも多数のフェリーが就航しており離島航路を含め全て鹿児島湾を航行しているため船舶航行の安全性の早急な回復が求められ、また養殖が盛んな湾内の漁業活動にも大きな影響が出た。そして大量の漂流木に対処するため、海域での流木回収に大きな能力を有する海煌が鹿児島湾に緊急出動した。

2. 事業の概要

第十管区海上保安本部（以下、「十管」という）と鹿児島県からの出動要請が整備局長にあり、9月22日に緊急出動。当事務所船舶として初めての管轄区域外での活動となった。八代港を出港し15時間かけて現地鹿児島港へ到着した。現地では、鹿児島港湾・空港整備事務所（以下、「鹿港」という）が十管や県と湾内の流木漂流や流木回収の状況等の情報共有と作業区域等の調整を行い鹿港より日々船へ情報提供された。湾口から湾奥まで複数箇所に漂流木群が多数（数千本以上の）存在していた。まず超高速船のジェットフォイルの定期航路沿いを手始めに鹿児島湾内の漂流木回収を実施した。



湾内で流木を回収した海域

3. 事業の成果

鹿児島湾内全域を十管ヘリにて空から調査した情報も参考に回収エリアを決定し日々作業を進めた。湾内では当船以外にも十管の巡視船や県の漁業調査船、地元漁船が流木の回収にあっていたが各船には船上へ流木を引き上げる装置がなくまた、長い流木に苦闘していたため、海煌搭載の多関節クレーンを活用し海上受取を提案し実行した。船舶無線や携帯で各船と連絡を取り合い各船が苦勞している大型の流木を海煌が回収した。また立ったまま漂流する根付き流木は他船では対応できず海煌でもっぱら回収した。

多関節クレーンにはカッター付グラブを装備しており、流木を掴みその場で切断できる能力を最大限に発揮した。

4. おわりに

鹿児島湾での活動は10月11日までこの間に海煌が回収した漂流木は1,769本にのぼった。

船舶航行の障害を未然に防げたことに対して県知事よりお礼状をいただいた。